

【磯子区】令和 8 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 6 月 11 日（木）10 時 40 分～11 時 42 分
場 所	磯子区役所 7 階 701、702 会議室
出席者	【座 長】 二井 くみよ 議員 【議 員： 2 名】 関 勝則 議員、武田 勝久 議員 【磯子区： 26 名】 本城 泰之 区長、本多 修 副区長、 近藤 健彦 福祉保健センター長、 立花 千恵 福祉保健センター担当部長、 黒羽根 能生 磯子土木事務所長、 渡邊 浩司 磯子消防署長 ほか関係職員
議 題	議題 1 令和 8 年度磯子区個性ある区づくり推進費の執行計画等について
発言の 要 旨	武田議員：地域の皆様から伺っている声も踏まえ、何点か質問いたします。 まず、17 ページの「地域と一緒に作る防災・減災事業」について伺います。防災講座を 30 回実施されるとのことで、小学校で実施している写真が掲載されていますが、この出前講座は、自治会町内会など、地域に出向いて実施しているという認識でよろしいでしょうか。 岩井総務課長：ご認識のとおりです。昨年度は、自治会町内会や学校等に伺い、防災講座を実施しました。自治会町内会は 7 団体、学校は 12 校で実施しております。 武田議員：先日、災害時の避難場所について、地震時の避難場所と風水害時の避難場所が異なることなど、地域の中でまだ混乱があるとの声を伺いました。防災の取組は、地域によって事情も地形も異なりますので、現場に入り、その土地に合った情報を地域の方々と共有していくことが大事だと思います。引き続き、取組をよろしく

お願いします。

次に、19 ページの「地域・学校防犯力強化事業」について、区として防犯パトロールの支援を行っているとのことですが、現在、磯子区内でこうしたパトロールを実施している割合はどの程度でしょうか。

荒木地域振興課長：市の中期計画では、防犯活動を実施している割合について、現状値として 65.7%と記載しています。具体的にどのような活動かの明記はなく、また区ごとの統計データはありませんが、代わるものとして、磯子区における防犯パトロールの実態で申し上げますと、過去 4 年間に防犯活動用の物品、例えばのぼり旗、ベスト、キャップ、誘導灯等を配布した実績では、自治会町内会及び地区連合町内会を含めて 118 団体となっております。割合では、区全体の約 67%の自治会町内会で防犯活動へ携わっていただいている状況です。

武田議員：市全体の数値とおおむね同程度と思いますが、新たに「横浜市防犯のまちづくり推進条例」が制定され、「横浜市防犯のまちづくり推進プラン」が策定される中で、「ながら見守り」を推進していくことになっており、自治会町内会が何らかの取組を行うことを 100%目指すという指標になっていると聞いています。一方で、地域によっては人手不足があり、こうした目標が負担感につながる場合もあると思います。市民局からは、負担感を与えないよう、活動の意義や目的を丁寧に説明し、できる地域には取り組んでいただく一方、難しい地域では既存の地域活動の中で防犯意識を持って活動していただくことが大切であるとの説明を受けました。区として地域に入る際にも、趣旨をしっかりと説明し、地域の方々が困らないよう、取組の重要性と負担感とのバランスを取りながら進めていただきたいと思います。

続いて、22 ページの「子育て応援事業」の「いそピヨ」について伺います。今年度は Sunday いそピヨを年 12 回に増やしていただきましたが、現在の進捗状況と課長の所感をお聞かせください。

松本こども家庭支援課長：昨年度開始した Sunday いそピヨは、今年度、年

12 回に拡大しています。すでに 4 月と 5 月にイベントを開催しており、4 月は「パパと一緒におやつ作り」、5 月は「プラレールで遊ぼう」を実施しました。いずれも父親も楽しめる内容とし、大変盛況で満員となりました。実際に来場された父親の笑顔が多く見られ、効果的な取組であると感じています。引き続き、様々な方に参加していただけるよう進めてまいります。

武田議員：非常に好評で満足度も高いとのことですが、アウトリーチについても、昨年度、滝頭と上笹下の地域ケアプラザに行かせていただき、広いスペースを活用できて、良い取組になっていると思います。今年度の 3 か所は、昨年度訪れていない新たな場所を実施するという理解でよろしいでしょうか。

松本こども家庭支援課長：はい。昨年度とは異なる場所での実施を検討しています。昨年度実施した滝頭地域ケアプラザと上笹下地域ケアプラザ同様、いそピヨから距離があり行きにくい地域で、かつ、これまでアウトリーチを実施していない地区センター等の中から選定しています。

武田議員：地元の方にしっかり周知していくことが必要だと思いますので引き続きお願いします。また、資料にある「相談体制の充実」について、どのような取組か教えてください。

松本こども家庭支援課長：周知については、引き続き行っていきます。「相談体制の充実」についてですが、いそピヨには、もともと子育て相談という機能があります。親子が遊びに来る中で、自然に相談できる場を提供しており、専門機関に行く前の気軽な相談の入口となっています。こうした場の拡大をしていくという意味で、アウトリーチ等でも同様の場を提供し、より身近な相談体制の充実に取り組んでいきたいと考えています。

武田議員：お願いします。「いそっこマップ」の改訂については、可能であれば、男性が子育てしているような写真の掲載を検討していただきたいと思います。今や父親も当たり前のように子育てしている時

代なので、そうした姿を載せると、育児に対する意欲が高まると思います。

次に、23 ページの「区民の健康づくり応援事業」のがん検診の啓発について、前回、二井議員からのご質問ありましたが、65 歳以上に無料化の対象が拡大されたことから、区としてもより力を入れた方がいいと思います。前回、検討するとのことご答弁でしたが、その後の動きがあれば教えてください。

川崎福祉保健課長：磯子区では、乳がんによる死亡率が全国平均に比べて高いことから、乳がん検診を重点的に啓発しています。今回、新たに無償化の対象となる 65 歳から 69 歳までの方が約 9,000 人いらっしゃるので、より一層啓発に力を入れてまいりたいと考えています。具体的には、区の自主企画事業として、健康づくり応援隊の回数を増やして広報啓発を行うほか、保健活動推進員の活動における啓発、がん検診実施医療機関等への啓発チラシの配布、パネル展、広報よこはま区版等を通じて情報発信を行ってまいります。

武田議員：いろいろと検討いただいておりますので、引き続きお願いいたします。

次に、39 ページの「交通安全啓発事業」の交通安全指導について、道路交通法の改正もあり、自転車ルールに関する大人への啓発が重要だと思っています。警察による講話に参加した際、自分の認識を確認する機会にもなりましたので、今後も意識を高める取組を進めていただきたいと思います。

最後に、51 ページの多文化共生の中で、ごみの分別の問題について、外国人住民に限った話ではありませんが、ルールを守らない方が一部おられて非常に困っているという地域の声もあります。防災と同様に地域ごとに状況が異なるため、一律の対応は難しいと思いますが、現場の課題を把握しながら、資源循環局とも連携して取り組んでいただきたいと思います。私からは以上です。

関議員：まず、10 ページの「磯子区制 100 周年記念事業」について伺います。機運醸成事業では、100 周年記念グッズの作成とありますが、具

体的になっているものがあれば教えてください。また、100 周年事業として考えていることがあればお聞かせください。

及川保険年金課長：令和 7 年度は、エスカレーターのデザインと缶バッジを作成し、配布しました。令和 8 年度も、缶バッジを作成して職員や関係者等に配布していきたいと考えています。また、子ども向けにいそびをデザインした缶バッジを作成し、配布することも検討しています。その他のグッズについては現在検討中ですが、磯子区職員の有志による i♥i-share（アイアイシェア）制度でアイデアを出しながら、今後具体化していきたいと考えています。

関議員：記念グッズには予算も必要ですので、その点も含めてしっかり取り組んでいただきたいと思います。前区長からの取組を本城区長のもとで継続されていると思いますが、現在の状況を教えてください。

本城区長：100 周年については、区役所と磯子区制 100 周年記念事業実行委員会で具体的な内容を詰めているところです。各部会において、区民の皆様とともに記念事業の内容や盛り上げていくための具体的な検討を進めています。百彩パネルやデザインマンホールの制作も、令和 9 年に向けて準備を進めている状況です。また、来年は横浜グリーンエキスポも開催されるので、相乗効果を狙いながら、100 周年とグリーンエキスポの両方を、磯子区の特色として発信していければと考えています。100 周年を、磯子区誕生からの歴史を振り返り、磯子の魅力を再発見する機会として、区役所一丸となって取り組んでまいります。議員の皆様からも、様々なアイデアやご意見をいただきながら進めてまいりたいと思っております。

関議員：グリーンエキスポも含め、近づいてこないと具体的な内容が発表しにくいことは承知していますが、温めている企画もあると思いますし、事業化に向けた予算確保も必要だと思います。しっかり検討していただきたいと期待しています。

次に、19 ページの「地域・学校防犯力強化事業」について伺いま

す。最近では、被害者にならないことに加え、加害者にさせないという考え方が必要だと思います。匿名・流動型犯罪では、関わる年齢がどんどん下がってきている状況で、区として、例えば警察と連携して、防犯力を強化する流れの中で、加害者にもさせないという考え方はあるのでしょうか。

荒木地域振興課長：防犯は、被害を受ける側を守る視点が中心になっているのが現状ですが、おっしゃる通り、犯罪を行う側にさせないという視点も大事だと考えています。現状では具体的なアプローチは十分にできていない状況がありますので、今後、防犯の活動等の中で問題提起をし、どのような形で取り組めるか考えていきたいと思っています。

関議員：ぜひ、そうした視点でも防犯対策を進めていただきたいと思います。防犯条例にも、警察や関係機関との連携がうたわれていると思います。ソフト面の取組も大事で、磯子区から発信してもよい内容だと思いますので、ぜひ検討をお願いします。最後に、がん検診について伺います。磯子区民のがん検診の受診率は数字が出ますか。

川崎福祉保健課長：行政区別の受診率は出ていません。把握できるものとしては、横浜市の無料がん検診クーポンを利用した方の数は分かります。

関議員：今年度、常任委員会の福祉委員会に所属するので、そちらでも確認したいと思っています。乳がん検診の啓発グッズを花屋さんで配布した結果、受診率が上がったかなど、検証することが非常に大事だと思います。中期計画においても、市民目線を大事にすることが求められていると思いますので、こうした啓発をさらに広げていければいいと思います。65歳以上の無料化ということで、プッシュして進めていくことも一つあると思います。アプリ等の活用による啓発もしているとのことですが、こうしたアナログな取組も大事だと思います。また、花が好きな方が花屋さんに行くわけで、そういう方たちに

ぜひグリーンエキスポを周知すればいいと思います。ポスター等の扱いには博覧会協会からの制約があるかもしれませんが、関心の高い方に届く工夫として、乳がん検診の啓発のように、花屋さんを活用する視点も大事だと思います。また、磯子区は商店街の視点を大切にしていると感じており、今後、各区の区民デイが企画されるときに向けて、今から仕込みを、磯子区制 100 周年ともタイアップして、進めていただきたいと要望して終わりたいと思います。

二井議員：まず、12 ページの「脱炭素・GREEN×EXPO 2027 推進事業」について伺います。私は今年度、グリーンエキスポに関する常任委員会に所属しますので、市役所とも議論させていただいており、議員団会議の資料でも、地域資源を活かした機運醸成という記載がありますが、磯子区から会場に行く場合、近隣の大和や海老名の駅近くに住む方に比べて足を運びにくいのではないかと感じています。バスの利用には事前予約が必要であったり、真夏に駅から 20 分程度歩くことは大変だと思います。磯子区民の機運醸成を図るとともに、現地へ足を運んでいただくような取組について、どのようなお考えか伺えますか。

吉田区政推進課長：現地に足を運んでいただくかは、磯子区としても課題だと認識しています。博覧会協会でも、バス便について検討していると聞いています。磯子からは、横浜線で十日市場まで行き、そこからバス便が十分にあれば、行きやすいルートの一つになると考えています。現時点ではバス本数等の具体的情報がないので、早期に情報提供していただくよう働きかけ、区民に分かりやすくお伝えしていければと考えています。

二井議員：磯子区からは距離があるからこそ、区民に来ていただけるような工夫をしっかり検討していただけたらと要望いたします。

次に、14 ページの「区の魅力創出・発信事業」の磯子の逸品について、昨日、記者発表資料をいただき、私も周知したいと思っています。100 周年にちなんだ追加認定ということで、ぜひ多くの区民に応募していただきたいと思いますが、どれくらい

の応募を想定していますか。

吉田区政推進課長：磯子の逸品については、昨日から推薦受付を開始しました。前回、令和元年の推薦数は300弱でしたので、今回はそれを超える数を目指したいと考えています。また、今回は推薦の後に投票を行う二段階方式を予定しています。推薦段階では多くの件数を集めることは難しい面もありますが、投票段階では候補を見て参加していただけるため、より多くの方に参加していただけたと考えています。今まで以上に多くの方に参加していただくというところに、100周年記念として実施する意味もあると考えています。

二井議員：区内には、認定されていなくても魅力的なお店が多くあると思っているので、100周年との関わりの中で、区、お店、区民の皆様にとってより良い事業となるようにお願いします。

続いて、17ページの「地域と一緒につくる防災・減災事業」の防災講座について伺います。国際交流ラウンジと連携し、在住外国人の方を対象に実施することは素晴らしい取組です。区として、外国人の方の防災意識や課題をどのように捉えていますか。

岩井総務課長：区内では、中国、ベトナム、フィリピンなどアジア系の方が増えていると聞いています。区内人口約16万人のうち、外国人は約4.5%です。こうした状況を踏まえ、外国人の方々に対する防災意識の啓発はしっかりやっていきたいと考えています。昨年度は、防災リーフレットを、やさしい日本語、中国語、英語の3パターンで作成し、多文化共生ラウンジと協力して日本語教室等で配布しました。災害時に助け合えるよう、多文化共生ラウンジを通じて、顔の見える関係やつながりを作りながら、防災について学んでいただきたいと考えています。

二井議員：地域特性も踏まえ、地域に入りながら、いろいろな場所での諸課題に対応していただきたいと思います。

次に、防災アドバイザー派遣について伺います。自治会町内会に加え、22か所ほどある地域防災拠点にも派遣対象を拡大するとの

ことですが、10 団体という目標は少ないのではないかと感じます。現況を教えてください。

岩井総務課長：昨年度は 17 団体、30 回、アドバイザーを派遣しました。地域防災拠点については、これまでは地域防災拠点運営委員会連絡協議会や区職員の参与としての関わりがあったため対象外としていました。しかし、拠点ごとに組織力の差があり、発災時の開設に不安を感じている拠点もありますので、希望がある拠点には派遣したいと考えています。目標の 10 団体は、確実に実施する数として設定しています。

二井議員：大地震が起きた際には、多くの区民が地域防災拠点に向かうと思いますので、要望があれば柔軟に増やしていただきたいと思います。

続いて、ペット同行避難について伺います。昨年度の訓練を視察し、大変勉強になりました。今年度は 4 か所で実施することですが、見えてきた課題と今後の対応を教えてください。

古家生活衛生課長：昨年度は 2 か所でペット同行避難訓練を実施しました。その際、想定していなかった猫を連れて来られた方がいらっしゃり、改めて犬とは異なる特性に応じた対応が必要であると感じました。今年度は実施箇所を拡充し、区獣医師会の助言をいただきながら、犬と猫の飼育スペースを分けることや、猫のケージをタオル等で覆い、光や音の刺激を抑えるような配慮をするなど、飼い主の不安を和らげるよう努めてまいります。

二井議員：また視察させていただきたいと思います。

次に、防犯灯について伺います。暗がりの解消に向けた取組の中で、防犯灯の要望が私のところにも多く寄せられています。自治会町内会を通じて申請する仕組みであることは理解していますが、自治会町内会の加入率の低下もあり、防犯意識が高まっている中で、どうやったら設置できるかを知らない区民も多いのではないかと感じています。区としての案内や課題感を伺います。

荒木地域振興課長：防犯灯の設置要望は、区にも多く寄せられています。市の中期計画でも安心・安全に関する取組として防犯灯設置が位置付けられ、市民局でも LED 防犯灯のプッシュ型設置を進める予算措置がされています。区でも現地確認を行うほか、各地区の定例会に伺い、地域振興課から申請の検討をお願いしています。現行の仕組みは自治会町内会からの申請を経る形ですが、自治会町内会に加入していない方々の暗がりへの不安にどう解消していくかはこれからの課題だと思っており、自治会町内会への取組と両輪を見ながら進めていきたいと思っています。

二井議員：加入していない方からの相談もあると思いますので、引き続き地道な取組をお願いします。

続いて、21 ページの「磯子区地域福祉保健計画（スイッチON磯子）推進事業」について伺います。取組自体は素晴らしいと思いますが、区民の認知度はどの程度でしょうか。

川崎福祉保健課長：スイッチON磯子の認知度について、全体的な統計は取ったことはありませんが、磯子まつりのブース等で実施したアンケートでは、年度によりばらつきがあるものの、20%から 40%程度でした。他区の地域福祉保健計画の認知度も 7 %から 40%程度と幅があります。今後は区民意識調査等で把握していきたいと考えています。

二井議員：続いて、26 ページの「磯子区制 100 周年記念事業」のイベント支援に関連し、「よこむすび」に登録しましたが、案外情報が少ないと感じました。区内での登録状況を教えてください。

荒木地域振興課長：5 月末現在で、区内の登録団体は 21 団体です。内訳は、区民活動支援センターの登録団体が 18 団体、自治会町内会が 2 団体、いそご区民活動支援センターで 1 団体です。

二井議員：今後、登録や情報発信が増えることを期待します。

最後に、29 ページの「自治会町内会振興事業」の自治会町内会支援事業に関連して、英語、中国語、韓国語の加入申込書を用意さ

	れていることは素晴らしいと思います。外国人の方の自治会町内会への加入率や傾向、現状の課題感についてお伺いします。 荒木地域振興課長：外国籍の方が何人加入しているかという形での把握はしていません。ただ、自治会町内会の役員の中に外国籍の方がいらっしゃる例もあり、実感としては年々少しずつ参画いただく方は増えていると感じています。 二井議員：分かりました。私からは以上です。 荒木地域振興課長：先ほど関議員からご質問いただいた 19 ページの「地域・学校防犯力強化事業」に関して、犯罪の加害者とならないようにする取組について補足します。中学生のポスターコンクールでは、交通安全のほか、防犯、火災予防をテーマに作品を募集しています。防犯のテーマでは、匿名・流動型犯罪に巻き込まれないよう、「そのアルバイト大丈夫？」といった、生徒の皆さんが仲間を犯罪者にしないという思いを込めた作品もありますので、そういった発信をすることも、取組の一つとしてあると考えています。
備 考	